

いつかまた、の向こうで

It is the five minutes before the creation hypothesis of the beloved world.

「ふつかまた、扉の向ひへど」

英題「それは愛しき世界の5分前創造仮説」

It is the five minutes before the creation hypothesis of the beloved world.

ふつかまたの扉の向ひへど

### 仮題1 「world is you. × 3」

世は世なり、世界はあなた、世は汝なり

### 仮題2 「It's a Lovely World Hypothesis.」

It's a Lovely Five-minute hypothesis

それは愛しき世界五分前仮説

「また扉の向ひへど」

オンラインゲーム 「The New Doors.」 TND

オンラインゲーム 「The Next Doors.」 TND2

あらすじ

時計町は一週間後に町総出で行われるカルフエイとアヌリージュの結婚式の準備に大騒動。街の人々に愛された二人の結婚式をとにかく大成功させようと町長からコツクさん、衣装屋さん、みんな大奔走の特別な一週間！ そんな

大事な時に現れた変わった服装の旅人を昔ながらの町の決まりに従つてもてなすこと。さてさて結婚式は成功するのか？旅人とは一体誰なのか？ファンタジーと近未来が織りなす「幸せ」と「愛」を知るための物語。

BAR ムーンフォール

アクロイン議長

リツケル

エルセラ・セルーネン

ドルドル

イムルティ・エメメラルデ

イミイ  
ミリミ

ミリミメルメ・エメメラルデ

大工のゲンドルトン親分

トンドルゲン

アクレール町長夫人

・登場人物

カルフエイ（花屋）

アヌリージュ

ジメルマ町長

町長の秘書リツケル

カーノル・マルトー

飾りつけ、衣装屋さんのミリミメルメ

ミリミメルメの助手のイムルティ

料理長のヴィスメント

BAR ムーンフォールのマスター

アクレール

小清水 流太郎

水口 透

火山 大輔

「交差する音は始まりの狼煙」

(ドンドンドンドンドン、ドアを強く叩く音)

(開けてください！　ここを開けてください！)

(お……さ……がじ……にあわ……)

(遠雷が鳴る)

(ドンドンドンドンドン、トントントントン、トントントン)

リッケル　　あー、忙しい、忙しい、忙しーーい！　カルフエイと  
アヌリージュの結婚式まで一週間を切つてしまいまし  
た、別に毎日、手を抜いているわけじやないのに問題  
やら何やらがこんなにわんさか溢れてくるなんて……  
いや、けど二人のためにも最高の式にしなくちゃいけ  
ませんよね！ひいてはそれが町のためになるいとい  
う一石二鳥、いや一石三鳥？　四鳥？

(ジメルマ町長、上手から入つてくる)

リッケル　　ジメルマ町長、やることがいっぱいどうすればいい  
かわからないですー！

ジメルマ　　どうした、リッケルくん！　焦つたって何も良くな  
らないだろう？　何事も冷静に、着実に

それはそうですけどお

リッケル　　ドレスに使用する追加の生地はどうなつたの？

ミリミ　　まもなく到着します！

到着したら、すぐに工房へ頼むわよ

イミイ　　はい！

ヴィス　　あの食材に合わせたら、うまくいくかもしねない、ふ

むふむ

アクレールさん、あれの在庫はまだあるかい？

あるよ、任しといて！

ありがとう！

ヴィス  
アクレ  
ヴィス

(みんなでわちやわちやする)

(カルフェイ、入ってくる)

ジメルマ ああ、カルフェイ！ 元気か？ 体調崩してないか？

お前さんの結婚式の準備はな、着々と進んでいるぞ！

ありがとうございます、いやあみなさんにはお世話になりました

ジメルマ 何を言うか、それも全部お前さんがこの町のために頑張ってくれているからじやないか、な！

(みんなでわちやわちやする)

(変わった服装の男性が登場する)

流太郎 あのー、すいません

(全員振り向く？)

(杖を持つた男性がいる)

流太郎 ここは時計町であつてますか？

(なんか変な格好じやないですか？)

(カルフェイが走つて近寄る)

カル はい！ ここが時計町であつてますよ、旅のお方ですか？

流太郎 いつかこの町に来てみたいと思っていてようやく来れました、少しこの周辺を回りたいと思っていて、でもまず宿を探しているんです

カル そうでしたか、どうぞどうぞ、リツケルさん、集会所の部屋つてまだ空いてましたよね？

(書類を確認するリツケル)

リツケル ああ、えーっと、えー、実はカルフェイとアヌリージュの結婚式の準備の物でどこもいっぱいになつてしまつて……

流太郎 そうか、それは申し訳ないなあ

そうだ！ なら僕の家に泊まつてください！ ついでに僕の結婚式にも出てもらいましょう！

一同 えつ！

カル リツケル それは……

ジメルマ ダメではないが……

カル 決まりですね！ 町の古くからの決まりにも客人は町総出を持つてもてなすことってありますし！ アヌリージュもきっと喜びます！ さあこちらへ！

（二人、はけていく）

（みんな、てんてんてん、我関せず、さあやることがあるからとそそくさとはけていく、みんなを呼び止めようとするリツケルとジメルマ）

（舞台上に2人残る、リツケルとジメルマ）

### 「古い教え、脈々と受け継がれる精神」

リツケル どうするんですか、どうするんですかどうするんです

かあ！ ちようちよう！

ジメルマ

どうするもこうするもない、客人は丁重におもてなしするのがこの町の古くからの決まりだ

リツケル

だけどカルフエイとアヌリージュの結婚式がもうすぐそこに迫ってきているんですよ、まだまだ準備するところが山ほどあります

ジメルマ

わあかつている、だが客人をもてなす決まりを無碍にはできない

リツケル

別にいいじやないですか、今回だけはお断りをして、なんなら隣町に行つてもらつたりばかもの！

ジメルマ

リツケル

(ひー)

ジメルマ

神様はこういう時こそ見ておられるのだ、そうだこれは試練だ、こういうときにこそ町長としての腕前を見せねばならん！

(ふんふん！)

リツケル

おおー！（パチパチパチ）

ジメルマ

古ーい話だ、この街をひどい豪雨が襲つてな、皆が皆、神様にどうかお救いくださいと願つた、そしたらそこに杖を持つた変わった服装の旅人が現れて豪雨から街を救つた、そしてお礼にその旅人を町みんなで持て成したという話がこのどんな客人ももてなす決まりのルーツだと言われている

ジメルマ

一説にはその旅人が人間のふりをした神様自身だつたのではないか、なんて話まであるくらいだ

リツケル

ほうほう、そんな話があつたんですね、でもそれは昔の話じゃないですか、今回くらい

ジメルマ

ばかばか、ばかもん！ 信仰とは、代々続いていくものだ！ 今日だからとか、明日だからとかそんなこと言つていると足元を揃われるぞ！ あの客人が万が一、本当の神様であるということだつてあるかもしけれないだろう

リツケル

確かに……、すいませんでした

ジメルマ

うむ、旅のお方が日々に困ることがないよう、よろしく頼むぞ

リツケル

はい、承知いたしました！

「匂いと空気、懐かしさを感じるとき」

(上手から二人が入つてくる)

カル

どうぞ、この部屋を使ってください

流太郎

ありがとうございます、助かります

(まじまじと部屋を見る)

カル

何か気になることでもありましたか？

流太郎

いえ、いい部屋だなど、なんか懐かしさを感じて

カル

あはは、それはありがとうございます、僕も好きです

この部屋

カル

そういえば、お名前は？

流太郎

流太郎と言います

カル

流太郎……、珍しい……、名前ですね

流太郎

ああ、まあ、そうですよね、では「リリュー」とでも

呼んでください

カル

じゃあ、リリューさん

流太郎

カルフェイさん

(二人でにつこり)

流太郎

さつき、ちらつと話していたことなんですが

カル

なんでしょう？

流太郎

ご結婚、されるんですか？

カル

ああ、ええ、はい、結婚式でいただけますか？

流太郎

もちろん

カル

いやあ、嬉しいなあ、これは賑やかになりますよ！

(わくわく)

ぜひぜひ町を見て回つてください、僕たちの結婚式の準備なんで僕が見てつていうのもあれなんですがいえいえ、せつかくなので楽しませていただきます

流太郎

ぜひぜひ町を見て回つてください、僕たちの結婚式の準備なんで僕が見てつていうのもあれなんですが

「愛されている人、ということ」

（夜になる、町を歩く流太郎、バーを見つける）

（カラソカラソ）

アクレ やあ、今日来た旅人さんだね、どうぞ

（流太郎、会釈して入店）

（シャカシャカ釈迦、しているマスターのアクレール）

アクレ 何にする？ 牛乳？

流太郎 あー、ああ、ウイスキーとかってありますか？  
アクレ ああ、あるよ、いいのがある

流太郎 お願いします

（準備するアクレール、流太郎の前に差し出す）

アクレ はい、牛乳

流太郎 え？

アクレ あなたも大変な時に町に来てしまったね

（置いてきぼり）

流太郎 ははは、けどみなさんなんだかんだ楽しそうですね  
アクレ そうだねえ、アヌリージュももちろんだけどカルフェ

イは特に皆に愛されているからね

それは何かきっかけとかがあつたんですか？

流太郎 彼はもともと冒険家でね、魔物の討伐や秘境の探索を  
アクレ 生業に生きている人間だったんだ

（ふむふむ）

アクレ

たまたまこの町を訪れていた時に町を大きな竜が襲つ  
てね、それを彼が撃退して多くの命を救つてくれたん

だよ、そこから彼はこの町で英雄なのさ

それはすごいですね

流太郎

だが最後の最後に死に際の竜の爪がカルフェイを襲つ  
て、冒険家の仕事ができなくなってしまうほどの深手

アクレ

を負ったんだ、それ以来冒険家を引退して、この町に住むようになったんだよ

そうでしたか

流太郎 彼は、愛されているんですね

アクレ ああ、彼にはなんとも言えない良さがある、それは人間としてなのか、なんなかわからないが彼も我々のこと、町のことを愛してくれていて、守ってくれているということが伝わってくるんだ、だからこの結婚式を皆で成功させたくて頑張っているんだ

流太郎 素晴らしいことですね

(にこにこ)

アクレ なんか嬉しそうだね？

流太郎 そうですか？

アクレ 今そんな顔をしているよ

流太郎 はは、けどそもそもません、嬉しいんです、とて

も

(ふふ) (グラスふきふき)

「ずっと見ていた、その光」

（カルフェイの一人語り、スポット的な感じ）

見ていた

ずっと見ていた

生まれた時から、その輝きを見ていた

いつも隣にいた、いつもそばにいた

人が何かを成す瞬間を、人が何かに魅入られ、そこに打ち込む美しさを

見ていた、ずっと見ていた

あなたの輝きを、あなたたちの輝きを

人間の輝きを、ずっと、見ていた

「理想と信念、ことの本質」

（早歩きヴィスマント上手から、追いかけてくるジメルマ）

ジメルマ ちょっと待ってくれ、ヴィスマント、待ってくれ

（立ち止まる）

ヴィスマント ジメルマ、あの食材がなければ私の料理を完成させる

ことはできない、今からでも他を当たってくれ

ジメルマ そんなことをいうな、ここまで一緒にやつてきたじやないか

ジメルマ 一緒にカルフェイとアヌリージュを祝うとずっと前から約束してただろう！

ヴィスマント そんなことはわかっている！ こっちだつて何も感じないわけじゃない、じやあ、どうする？ 別のルートの探検隊を今から探して、依頼して、派遣して間に合うか？

ジメルマ それは……

ヴィス

ああ、間に合わないさ！ 間に合うわけがない、どうすればいいんだ

(流太郎が入つてくる)

ジメルマ ああ、旅人さん、ええっと、名前は確か

流太郎 リリューと言います

ジメルマ おお、リリューさん、リリューさんね、どうかなこの街は、私が治めて早数年

(去ろうとするヴィスマント、止めるジメルマ)

ジメルマ ちょ、ちょっと待て、ヴィスマント

ジメルマ あはは、いやあ、申し訳ない、少し立て込んでいてね

(去ろうとするヴィスマント、止めるジメルマ)

流太郎 どうかしたんですか？

ジメルマ いやあ、その……

ヴィス あなたには関係のないことだ、この街はとてもいいところだからぜひ楽しんでほしい、それでは

(ヴィスマント立ち去る、ジメルマ追いかける)

(流太郎、舞台に一人になる、そこにリッケルが上手より登場)

リッケル ああ、えつと、りゅ、りゅ、りゅーりたん？ ぴーたらんさん！

流太郎 流太郎ね、リリューって呼んでくれるかな

リッケル リリューさん！ 呼びやすくなつた！ 助かります！

流太郎 さつき男性と町長さんが向こうに行かなかつたかい？

リッケル ああ、ヴィスマントさんですね？ そうなんです、少し問題がありまして

流太郎 何があつたんだい？

ヴィスマントさんはこの町の料理人なんですが、結婚式に向けて最高の料理を準備していました

リツケル

でも一つ重要な食材があつてそれが届くのを待つていたんですが、先日近くの橋に落雷があつて橋が落ちてしまつたんです

流太郎 それは大変だ

リツケル

はい、しかもその橋の先にしかその食材はなくて、現状、手に入れるのは絶望的でして、これでは完成できない、こんな恥ずかしい状態で結婚式は迎えられないから辞退したいと

流太郎 それは困つたね

リツケル

そうなんです、ああ、こんな話を旅人のリリューさんにしてはいけないですよね、どうぞ今日も近辺を見て回つてください！

（リツケル忙しそうにはけていく、流太郎一人残る）

（流太郎、よそ見をして、はけていこうとする、そこに布を大量に持つたミリミメルメとイムルティが早歩きで現れる、ぶつかりそうになる）

ミリミ ちよつと！ あなた、危ないじやない！

流太郎 す、すいません

ミリミ

あらあ？ あなた、昨日来た旅人さんね？ あなたのその服はどこで作られたものなの？ 北部中央のアクレヴァ？ それとも南のユールエントかしら？ いや、東のキッカ？

（勢いよくいろんな角度から流太郎を見る、落ちた布を拾うインムルト）

イミイ

すいません、この方はこの世界ではかなり有名な衣装デザイナーとして……

流太郎 ああ、そういうこと、あはは

（見続けるミリミメルメ）

ミリミ

へえ、そうできるのね、ここは？ へえ、なかなか

やるわね

ミリミ

面白いわ、脱ぎなさい

流太郎

ええつ！

ミリミ

この服、私に頂戴！

（服を引っ張る、逃げ追いかけ）

イミイ

何いってるんですか、ミリイさん！

ミリミ

この服は私の更なる発展に役立つわ！ ほら、早く！

流太郎

嫌だつ！ 嫌だーつ！

（さらに脱がそうとする、逃げ追いかけ）

リッケル

ちょっと、どうしたんですか！

（リッケル帰つてくる）

イミイ

リッケル君、助けて！

リッケル

どうしたんですか二人とも！

ミリミ

偉大なる芸術の発展を邪魔するなあ、ガキンチヨ！

舐めたことしたら、まち針でその場に固定するぞお

つ！

リッケル ひーーー！

（ジメルマが帰つてくる）

ジメルマ までまでまで、今度は何事だ！

リッケル

ミ、ミ、ミリミメルメさんがあああ、僕をおおお、

（混沌とした舞台）

ジメルマ

ミリイさんの悪い癖がまた出てしまったのか

ジメルマ

こら、やめなさい、ミリイさん、相手は大事な客人な

んだぞ！

（ジメルマが間に割つて入る）

ミリミ

貴様も偉大なる芸術の発展の邪魔をするのか、能無し

町長めが！

ジメルマ な、なな、なんつと言つたあ、今あああ！  
(わちやわちやする)

カル ちよつと、ちよつと、何事ですか、これは！  
イミイ カルフェイさん！ いつものやつです

カル ああ、いつものか、よし  
(舞台袖に消えるカルフェイ、剣を持って帰つてくる)

カル みなさーん、そろそろいい加減にしないとー  
カル 斬りますよ……？  
(シャツキーン、ゆつくり剣を抜く)

(一同、剣を見る、眼を覚ます、並ぶ、さらに何かする？)

カル みなさん、お忙しいと思ひますし、僕も配達がありますから、ではでは

(ゆつくりと剣をしまう、笑いながら去つていくカルフェイ)  
(顔を見合わせる一同、いそいそ)

ミリミ あなた、代わりの着替えとかないの？  
流太郎 あります

ミリミ ならそれ、私の工房に持つてきて頂戴  
流太郎 それなら、いいですよ

イミイ わがままをすいません

いえ、これも偉大なる芸術の発展のためですよね

ミリミ そうよ、わかってるじゃない

ミリミ あんたも早く仕事もどんなさいよ

ジメルマ う、うううるさい！ 言われなくとも！

(ふんふん、皆散つていく、リツケルとイミイが残る)

イミイ 大丈夫？

リツケル うん、だ、大丈夫

イミイ よかつた、あ、私行かなきやだから

リツケル うん

イミイ お互い、頑張ろうね

リッケル うん！

（走つていくイムルティ）

（それを見守るリッケル反対方向へ歩いていく）

「それは、どこかいつかの誰かのために」

（夜になる、バーに入る）

（カラソカラソ）

アクレ いらっしゃい

流太郎 どうも

アクレ 今日は何にする？

流太郎 ウイスキーを……

（ほんとにい？）

流太郎 牛乳で

アクレ 牛乳は身体にいいからね

（準備する）

（奥に誰かいる、スンスン聞こえる）

流太郎 あ、町長さん？

ジメルマ お、俺だつて、頑張つてんだつ……、スンスン

アクレ あー、気にしなくていいから、あの人はね、いつもそ  
うだから

流太郎 今日の昼のですよね

アクレ そ、久々に「能無し町長」の一言が効いたみたい

流太郎 あらら

アクレ まあ政治家や誰かのために生きる仕事の人間なんてそ  
んなもんだから、そこはね、耐えないと

（シャカシャカ、フキフキ）

アクレ

何事もそうだけど、人の頑張りなんて誰かに決して見えるもんでもないし、その頑張りは評価のためにするもんでもなく自分のためにするもの、そしたら奇跡的に評価がもらえるたりするってだけ

アクレ  
人間は、自分がどこかの誰かにしてあげられる何かをずっとずっと探しながら生きていくしかないものでしよう？

アクレ  
はい、そうですね

ジメルマ  
グスグス、また明日から、町のために、頑張ります：

⋮、グスつ

アクレ  
えらい、えらい！ あつはつは！

（カラソカラソ）

アクレ  
あらあら、今日の英雄の登場ね  
やめてくださいよ、あ、リリューさんじやないです

カル  
どうも

流太郎  
町長まで

カル  
ジメルマ  
グスングスン

アクレ  
いつもの、意氣地無しタイム

カル  
あー、あれはミリミメルメさんの本音でもなんでもないですよ、ちょっとカツとなつて出てしまつただけの

戯言じやないですか

ジメルマ  
うう、そう信じている……

（着席）

カル  
いつもの

カル  
はいはい

アクレ  
流星一途25年のロック

（リリューがびっくりしながら、見る）

（え？ あるの？ なんで？ なにが？）

(不思議そうなカルフェイ)

カル やつぱり、うまい

ジメルマ 私にもそれを

アclare もー、飲み過ぎじゃない？

ジメルマ 最後にする

カル 僕のボトルから出してあげてください

アclare 仕方ないなあ、はい

(牛乳が出てくる)

(え?)

ジメルマ くーっ、うまい！

(何が起きてる？ ボトルとは？)

(一瞬、間があく)

流太郎 そういえば、カルフェイさんの奥さんはこの街にはい  
ないんですか？ 未だに見かけなくて

ジメルマ ああ、今はこの街にいないんだ

流太郎 やつぱり、そななんだ

ジメルマ この地域の婚礼では、結婚式の当日の一週間前から隣  
町に住んで、距離を取る風潮があるんだ、そして当日  
に新婦がやつてくるのを待つて、無事にこの街に來た  
ら結婚式をするんだ

流太郎 へえ、少し変わつてますね、なぜなんでしょう？

ジメルマ んー、詳しいことはわからないんだが、まあ最後の選  
択、的な？

カル 新婦は結婚式当日にこの街に來ないつてこともできる

んですよ

ええ！

来るさ！ 絶対来るに決まつてる！

だといいですが、あはは

ジメルマ

カル

流太郎

カル

流太郎

奥さんはどんな人なんですか？

カル

この街で僕と一緒に花屋をしていまして、優しくて、

小柄な可愛らしい女性です

そうか、会つてみたいなあ

流太郎

結婚式当日には見れますよ、彼女は必ず来ます

流太郎

信じているんだね

カル

ええ、長い付き合いなので

（区切り、照明転換）

「たとえありきたりでも大切なものの」

（回想）

（流太郎板付き、一人語り）

流太郎

初めてのジョブは何にする？

流太郎

え？ 僕？

流太郎

僕はもちろん冒険家でしょ！ せっかくなんだから力  
ツコいい仕事にしたいじゃん！ 男の子ですから、あ  
はは

流太郎 君は？ ん？ 花屋？ おいおい、そんなのいつでも  
やれるじゃん、なんかこうさあ、ここでしかできない  
やつあるでしよう？

流太郎 これは自分の精神をリンクさせたキャラクター、いわ  
ば分身、君自身なんだからもつと夢、見ればいいのに

（間）

流太郎

まあ、そんなに花屋がいいなら  
花屋があ、まあでも、それもありか……、君には似合  
つてるかも

（区切り、照明転換）

（区切り、照明転換）

「愛したあの人はいつだつてそこに」

(コンコンツ)

ミリミ

どうぞ

(ガチャリ)

どうも

流太郎

ああ、旅人さん

流太郎

これを

ミリミ

あー、これよこれ、私の血肉になる芸術たち

(キラキラ、ギュー)

(流太郎、きょろきょろ)

ミリミ 気になるの？ まあ、見ていきなさいな、私のコレクションや作品を

(会釈して見始める、ここからは基本的に終始黙々と作業をするミリミメルメ)

流太郎 あ、これ、もしかして

ミリミ そう、アヌリージュが着るドレス、私の最高傑作になる記念すべき作品よ、あと一つ素材が揃えば完成なの

流太郎 綺麗ですね

ミリミ でしょ、なんてつたつて天下のミリミメルメ・エメ

メラルデが作つてんですから

ここが特に、ここも技が光りますね

ミリミ あなた、案外目が肥えてるのね、何か作つてる人？

流太郎 いや、まあ、あはは

(見て回る)

流太郎 これは？

ミリミ

ああ、触らないほうがいいわよ、もう一度会いたい死んだ人間に一度だけ会えるっていうアイテム、会いた

い人間がいなかつたら自分があの世に行つちやうんだ  
つて

流太郎 えつ！

ミリミ この世界に2つとない貴重なレアアイテムなの  
どうしてそんなものがここに？

ミリミ 旦那が冒険家でね、冒険の末に見つけ出したものらし  
いわ、いつか自分が死んだ時に私が悲しまないよう  
つて、馬鹿みたいで可愛いわよね

流太郎 へええ

（じつと見つめる流太郎）

ミリミ 会いたい人でもいるの？

流太郎 え、いや……

ミリミ 使えば？ あなたならいいわよ、使つても

流太郎 ええ！ 貴重なアイテムなんですよね？

ミリミ そうよ、この世界に2つとないものらしいからね

流太郎 旦那さんが見つけてきた大切なものなんじや

ミリミ そんなアイテム使わなくたってね、旦那はどこにでも

いるわ

流太郎 どこにでもいる？

ミリミ ああ、私の旦那はもうこの世にいないのよ、随分前に  
死んじやつたの

流太郎 そうだつたんですね、それはすいませんでした

ミリミ 別に気にしないで、人はどうせいつか死ぬんだから  
でもあの人はこの部屋のどこにでもいるわ、そこにも、そこにも、あつちにも、いつだつてそこにいた瞬  
間を思い出すことができる

ミリミ むしろそんなアイテムを使って、いつかの愛しの人には  
会つて意味なんかあるのかしらね

流太郎

⋮⋮⋮

私にそんな慰めはいらない、そのアイテムを使うことが重要ではないの、それがそこにあることが重要なのよ、あの愛しいあの人人が私のために必死に探してきた物、それと共に今の私があることが重要なのよ

流太郎

⋮⋮⋮

(ガチャヤ、イミイの登場)

イミイ

あ、どうも、リリューさん

流太郎

どうも

イミイ

ああ、ミリミさんつ

ミリミ

なに？

(焦りこしょこしょ話)

ミリミ

え？ ちょっと出かけるわ、あなたは好きなだけいていいから

流太郎

ああ

(ミリミメルメが外に出る、イムルティが流太郎に一礼して外に出る、流太郎が一人になる)

(暗転？ 区切り、照明転換)

火山

もう決まつたことだ

流太郎

それはそちらの都合ですよ！ 私は当時から反対していました！

火山

経営とは時として、難しい判断をしなくてはいけないことがある

流太郎

ですが、いいものを作るにはそれは大きな苦労が必ず伴います、社長、昔から僕たちそうだつたじやないですか、いいものを作るためにはいくらお金を受けたつ

て問題ない、お客様が本当に楽しんでくれるものを作ろうって、そのための会社だって

火山　　流太郎、もちろんそうだ、それは俺だって今でも

違う！ そんなこと、今でも思っていたらさつきの発言はあり得ないはずです！

火山　　流太郎！ こんなこと言いたくないが昔と今は何もかもが違う、変わったんだ、なにもかも

そんなバカな話……、聞きたくないですよ……

火山　　決定は覆らない、TND は終了する

※（つながりを考える）

（流太郎は歩いてその場から離れる、勢いよく）

（場所チエンジ的な演出、照明と扉で）

水口　　流太郎さん！

（歩いて移動しながら会話する）

流太郎　　後にしてくれ！

水口　　違うんです、流太郎さん！

（ガチャン、籠つてしまう）

（ドンドンドンドン、ドアを強く叩く音）

水口　　開けてください！

（開けてください！ ここを開けてください！）

水口　　奥さんが……、事故に遭われました……

流太郎　　え……？

（なんかアクション）

流太郎　　はっ！

（部屋のベッドで目覚める、動悸が激しい、どこか落胆、はける）

## 「施し」

(広場にて)

イミイ お願いです、考え直してください！

ヴィス イミイちゃん、いくら君に言われてもこればかりは仕方のないことなんだ

イミイ その食材がなくたって、ヴィスマントさんの料理は美味しいじゃないですか、完成だってできますよ

ヴィス だめなんだよ、あれがないと

ヴィス 約束だつたんだ、ジメルマとミリミメルメ、そしてカーノルとの

イミイ お父さんとの？

ヴィス ああ、その約束を果たせない自分が彼らを祝う資格なんてないんだ、すまない

(立ち去るヴィスマント)

※ (どうにかここに繋ぎ方を考えたい)

(街を出て行こうとするヴィスマントと流太郎が鉢合わせる)

流太郎 本当に行つてしまふんですか

ヴィス 旅人さんか、君には関係ないだろう、無理なんだよ、

私には荷が重いものだつたんだ

カルフェイとアヌリージュさんのお祝いをしてあげな

くていいんですか？

ヴィス 知つたような口を

ヴィス 君に話すことなんてない、それでは

流太郎 あの食材があれば、あなたはここに残ってくれるんですか？

なに？

ヴィス (じろり)

流太郎

手に入らなくなってしまった食材、僕がもし用意できれば  
なんだ、私と取引でもしようというのか？

流太郎

ヴィス

はい

ヴィス

君が用意するなど無理だ

ヴィス

何を考えている？ なぜただの旅人の君が私にそこまで肩入れをする？

流太郎

カルフェイとアヌリージュのためです

ヴィス

君は一体、何者なんだ？

流太郎

あなたもきっと本当は自分が二人の結婚式の料理を担当するのが相応しい心から思っている、違いますか？

ヴィス

…。

流太郎

少しだけ時間をください、お願ひします

ヴィス

…。

ヴィス

1日だけだ

流太郎

充分です

（その場を立ち去るヴィスマント、一人残る流太郎、どこからか杖

を取り出し、宙に浮くアイテムリストを探すそぶりをして、アイテムを生み出す、流太郎はけていく）

※（照明と音の演出を考える）

（イルティがそれを端で見てしまう）

## 「回想」

水口

流太郎

開けてください

いやだ

水口

流太郎

そんな子供みたいなこと言わないでください、本社の決定はもう覆りませんよ、ここは諦めるしかない、引くしかないんです

流太郎

馬鹿なこと言うなよ！ これに、どれだけの時間と愛を注いできたか

水口

それは僕だって同じです！ 流太郎さんと奥さんが子供のように大事に育ててきた大切なものだつてみんなわかつてます、でも仕方がないんです、こればかりは…

(スポットで独白)

流太郎

これが全てだつた、これに全てを捧げてきた、これさえあれば何も要らなかつた、この世界さえあれば…

## 「膨らませる疑念」

(イムルティが板付き、そこにウキウキのリッケルがくる)

イミイ 急に呼び出してごめんね

リッケル いやいや、ぜーんぜん

(てれてれ、はずかし)

イミイ リッケルくんは魔法とかつて信じる？

リッケル 魔法？ んんん、使えたらしいなあとは思うけど、そ

んな便利なものやつぱり存在しないよなあつて

イミイ 私、見ちやつたの

リッケル 見ちやつた？ 何を、見ちやつたの？

イミイ リリューさんが

リツケル

リリューさんが？

リツケル

リリューさんが？

イミイ

何もないところからね

リツケル

何もないところから？

イミイ

物質？

リツケル

無から？

イミイ

有を？

イミイ

えー、なんて言えばいいんだろう？

リツケル

とにかく、魔法みたいなものを使ってたの！

イミイ

まま、魔法を！？

リツケル

ウイーンって、シュシュシューからのポンって

イミイ

えええ、リリューさんって一体……

ジメルマ

こんなこと街のみんなにバレたら、大変なことになり

リツケル

うわあつ、町長！

ジメルマ

やはり最初からおかしいと思っていたんだ、彼はこんな忙しい時に急に現れたし、格好は変わっているし、

おまけに魔法を使うときた

イミイ

いや、まだ魔法を使ったのかどうかは

ジメルマ

けど君は見たんだろう？ 最近巷では邪教が勢力を強めているとも聞くし、場合によつては兵隊に身柄を差し出さなくてはいかん！

(ヴィスマントが歩いてくる)

ヴィス 何の騒ぎだ？

ジメルマ おお、ヴィスマント、ついにリリューさんの正体が

旅人さんの正体？

ジメルマ 最近流行りの邪教の魔法使いかもしけんそうだぞ！

ヴィス なに？ 本当なのか？

イミイ いやいや、それはまだ決まつたわけではなくて

ヴィス やはり、なんかおかしなやつだとは思つていた、決ま

りだな、追放だ、追放！

ジメルマ そうだ、それがいい！

(わちや、わちや)

(流太郎とカルフエイが二人でやつてくる)

カル どうかしたんですか？

ジメルマ ああ、噂をすればなんとやらだ！ カカルフエイ、

彼から、リリ、リリューさんから離れなさい、ほら

っ！ ほらーっ！

カル どうしてですか？ なにがあつたんですか？

ジメルマ 彼が邪教の魔法使いである疑惑が上がつたんだ

それは、あくまで、その……

見てしまつたんだと、その、なんか、わあーっと、キ

ラツと、つて

カル そんな……、リリューさんはそんな人では……

とにかく！ 町長として、これは見過ごせない！ 町

長として、うん、町長として！

ジメルマ

カル

ジメルマ

カル

ん！

（わちやわちや）

ミリミ なあにが、町長として、よ

（最初は声だけミリミメルメ、その後に登場）

ミリミ やっぱり、あんたはほんとに昔から能無し町長ね、目の前の不安に耐えきれず、すぐそれを人のせいにして、情けない

ジメルマ なつ……

ミリミ あんたも、ほらつ

（ヴィスマントに紙包を投げる、ヴィスマントがキャッチする）

ヴィス これは？

ミリミ あんたが欲しがつてた材料

ヴィス ど、どうやつて

ミリミ 私は天下のデザイナー、ミリミメルメ、コネなんかいくらでもあんのよ、なめんじやないわ、たかだか材料ひとつないだけで完成できないだなんて、情けない、それで結婚式の料理、絶対成功させなさいよ

一同 ……。

ミリミ ほら！ 邪教だか、魔法使いだか知らないけど、結婚式はもうすぐなんだから！ 解散！ 解散！ ダラダラしてんじやないわよ！

（一同、はけていく）

ミリミ ちょっと

（流太郎を呼び止める）

ミリミ 前にドレスを完成させるためにあと一つ素材がいるつて言つたの覚えてる？

流太郎 ええ

ミリミ  
ミリミ  
流太郎 それがどうしても手に入れられなくなつたの  
あなたなら、用意できるんでしょう？

ミリミ  
流太郎 ま、まさかっ！

ミリミ  
流太郎 じゃあ、もう一回みんなを呼び戻して、やつぱりあなたが邪教の魔法使いかもつて

それは、困ります！

（わちやわちや）

ミリミ  
なら頼むわね

流太郎 どうしてそこまで僕を信じられるんです？

ミリミ  
そうね、長年の勘よ、直感、私の今までの人生経験からくる絶対的な判断、とでもいうのかしら、あなた普通にやないもの

……。

ミリミ  
あなたがもし素材を用意できなかつたら、私も素材を

諦めるわ、じゃあ

（ミリミメルメがはけていく、一人残る流太郎、夜になる）

## 「幼馴染との古き約束」

（バーにて、ジメルマ、ヴィスメンと、イムルティ、寝てしまつて  
いるリッケル）

（アクレは終始、グラスを拭き拭き）

ジメルマ 冷静になると少々、やりすぎてしまつたかもしれない

な

ヴィス まあ、そうかもしけん

ヴィス だが、あの旅人さんはやつぱり変だぞ

ジメルマ それは同意だが、まあ眞偽が定かではない以上はなあ

ジメルマ

イミイちゃんにも迷惑をかけた、すまない、このとおりだ

いえ、まあどうにか丸く收まりましたし、ヴィスメン

トさんの料理も完成できますし、ね！

それはミリミメルメに感謝しなくちゃいけないな

ジメルマ ミリミメルメは昔からこういうとこ、しつかりしてて

心強いからなあ、けどよく怒られた

(ぶるぶる)

ヴィス 今もだろ、この能無し町長めが！

ジメルマ おい！ やめろ！

(わちや、やりとり)

イミイ 本当に皆さん、仲良いですよね

ヴィス 昔からこの街で一緒に育った幼馴染だからね

ジメルマ 私とヴィスマント、ミリミメルメにカーノルの4人で

仲が良くてね、いろんなことをしたものさ

(物思いに耽る)

ヴィス カーノルが一番、アヌリージュとカルフェイの結婚式に出たがっていた

ジメルマ そうだな、確かにそうだった

イミイ きっと、どこかで見てくれていると思います、ミリイ

さんの作るドレス、ヴィスマントさんの料理、ジメルマ町長の挨拶、お父さんが1番望んだ形でお二人の結婚式ができる

イミイ 私、とても嬉しいです

ヴィス もちろん、アヌリージュとカルフェイのための結婚式

だが、カーノルのためにも成功させなくちゃな

うむ、結婚式ももうすぐだ、自分のやれることを最大

ジメルマ 限やらねばな

(みんなでうんうん)

ジメルマ ほら！ リツケルくん、私たちも帰るぞ、君ももう帰りなさい！

リツケル むにやむにや、はつ！ 結婚式に遅れるつ！ わーつ！

ジメルマ こら、落ち着かんか、まだその日ではないぞ

イミイ リツケルくん大丈夫だよ、落ち着いて

リツケル はあ、すすすいません、はあ

ジメルマ シャキッとしないか、ほら！

(4人とも帰っていく、なんかいい感じに夜がふけて終わっていく

感じ)

(カルフエイが外を歩き、不意に空を見る、遠雷の音)

## 「遙か遠い場所へ」

(朝になる)

(工房に流太郎がくる、ミリミメルメ板付き、作業をしている)

ミリミ ああ、持つてきてくれたのね

流太郎 ええ

(素材の包みを渡す)

ミリミ これよ、これ、これなのよ、これが必要なのよ

(素材を抱きしめる)

ミリミ これで作業が進むわ、あなたには感謝しなきやね、あ  
りがとう

(作業を続けるミリミメルメ、立ち尽くす流太郎)

ミリミ 他に何か用でも？

流太郎 ……。

流太郎 いえ……

ミリミ 私ね、もう時期ここを去ろうと思つて いるの  
流太郎 去る？

ミリミ 遠くに行くのよ、ずっと、ずっと遠くに  
ミリミ ずっと会いたかつた人にもう時期会えるの  
流太郎 …。

ミリミ だからこのドレスが私の最後の仕事、あなたのおかげ  
流太郎 で無事に終えられそう  
（にこにこ）

ミリミ ずっと走つてきたわ、でももう疲れたの、いつまでも  
流太郎 栄光が側にあるわけではないから  
ミリミ …。  
流太郎 あなたも本当は何か特別な事情があつて、この街に來  
たんでしょう？

ミリミ たとえそれがいいことであれ、悪いことであれ、あなた  
流太郎 の決断に間違いはないわ、きっと  
流太郎 なぜですか？

ミリミ 世界つてそういうもんだからよ

ミリミ 悪いことが悪いもののまま終わるとは限らない、良い  
流太郎 ものも良いまま終わるとは限らない、始まりには必ず  
終わりがある

ミリミ ただ、そこで何か行動を起こさないとそのあらゆる変  
化は生まれない

ミリミ たとえその行動や変化が自分のエゴだとしてもです  
か？

ミリミ ええ、そのエゴがまた誰かのエゴを支えることだつて  
ある、それがのちに素晴らしい輝きになる可能性だつ  
てある

ミリミ

結局、目の前で何が起こるかなんてわからないから、  
何事もやつてみるしかないのよ

ミリミ いつだつて希望を忘れずに

流太郎 いつだつて希望を忘れずに

私は精一杯のことをイミイに教えたわ、血は繋がらず  
とも母としても、何かを作るものとしても厳しく全て  
を教えた、あの子はきっと私を超えるデザイナーにな  
る

流太郎 …。

ミリミ それでも自分が誰かにしてあげられることなんて、些  
細なもの

ミリミ あなたも何かを作る人間の端くれなんでしょう？ 後  
世に何を残せるの？ 何をしてあげられるの？

流太郎 僕は…

ミリミ 自身の可能性を低く見積もるのだけはやめときなさい  
な、人生の先輩からの忠告よ

ミリミ あなたはあなたの成すべきことをしなさい、誰もそれ  
を責めたりはしないから

流太郎 僕は僕の成すべきことをする

※（終わりの繋ぎ方摸索中、いわゆる扉から出てくる瞬間にカット  
が切り替わる感じにしたい）

「ずっとずっと、言えなかつたこと」

(流太郎板付き、カルフエイ入つてくる、場所考える)

カル

リリューさん、僕に用事つてなんですか？

流太郎

こんな忙しい時に申し訳ない

流太郎

実は君に、いや、本当は君だけではない、この町のみんなに言わなくちゃいけないことがあるんだ

言わなくちやいけないこと？

カル

ああ

流太郎

(沈黙)もしカルフエイが生きているこの世界が……

流太郎

明日無くなつてしまふと聞いたら、君はどうする？

(暗転?)

流太郎

この世界は実は「The New Doors.」通称 TND というオンラインゲームの世界で僕がこのゲームの開発者なんだ

カル

ゲームの開発者？

流太郎

全てが作られたもの、君たちはいわゆるデータの集合体なんだ

カル

……？ 何を言つてるんですか？

流太郎

いわゆる日常系 RPG 型の仮想現実といわれるものになるんだけど

仮想……現実？

カル

いや、わからないよなあ、そうだよな、なんて言えばいいんだろうか

カル

けど、なんでこの世界が明日無くなつてしまふんですか？

流太郎

長く頑張つてきたんだけど、業績の低下によつてサービスが終了することになつたんだ

カル

流太郎

それはいわゆる寿命みたいな？

ああ、そうとも言える、防げただろうに自信の慢心が招いたこと、全部この世界を作った僕の責任だ、君たちには本当申し訳ないと思つていてる

カル

流太郎

生まれたものはいつか必ず死を迎える、これはあなたの世界でも当たり前のことじゃないんですか？  
それはそうだ、僕の世界では日々たくさんのゲームが生まれては消えていく、素晴らしいクリエイター達がしのぎを削つて最高のものを生み出している中で、どこかの誰かは悔し涙を流している、けどそれが常だ、確かに当たり前のこと

カル

仕方がないことはこの世にたくさんあります、倒れてもいかにまた立ち上がるかにその人の真価が掛かっているんだと僕は思います

カル  
(流太郎、カルを見ていたがうつむいて沈黙)

流太郎

どうだろうか

カル

僕は、また立ち上がるんだろうか

カル

……。

疲れてしまつたんだ、この世界を一緒に作つた妻もう亡くなつてしまつた、多くの仲間も僕を見限つて去つていつた、僕は決して優れた人間ではなかつたからね

流太郎

だから僕はこの世界に逃げてきたんだ、僕と妻と仲間で作つたこの楽園に逃げ込んだ弱虫なのさ、願わくばこの世界と一緒に僕も消えてしまいたいんだ、そう思つてここにきた

カル  
リリューさん……

流太郎

僕は自分のエゴで、自分の弱さで君にこれを明かしてしまった、それは本当に申し訳ないと思つていてる

でも僕は君たちに本当は感謝を伝えたいんだ、君たちのおかげで、この世界のおかげで今の僕がある、そして君たちが多くの人間に希望を与えたこと

それを、ただ……、ただ知つてほしかったんだ

## 「もう一つの真実」

カル  
では、今度は僕があなたに言わなくてはいけないことがあります

僕に……、言わなくてはいけないこと？

カル  
僕はカルフエイとは違うもう一つの名前があります

流太郎  
もう一つの名前？

カル  
uoy engine2=mark18

流太郎  
ん？ まさか！

ええ、あなたがこのゲームを作り出すために使つた高性能AIサーバーの名前です

流太郎  
そんなん……、ありえない、サーバーに搭載されたAI

の一部がキャラクターに乗り移つたって言うのか？

ええ、そんなことはありえない、けど全てはあの大水害バグ事件が原因でした、サービスが開始されて5周年記念祭の朝、メインシステム内に競合他社から送り込まれたウイルスの影響でゲーム内の自然環境調整システムの制御ができなくなつてこの世界を豪雨が襲つた、多くの街が飲み込まれ、そのまま顧客データもデータインデータすらも消失する危険性があつた、それだけ強いウイルスだつた

カル

それをあなたはあなた自身の精神をゲームに同期、リンクさせゲームに自ら入り込んでこの世界を救いましたよね

流太郎

あの時はそれしか方法がなかつた

それはまだ当時では危険なことだつたにもかかわらず、あなたは真っ先にその責務を果たすといった

僕は全部見ていました、この電子の世界の中から

そして、その姿を見た僕に自我が生まれ、あなたのそ

の愛を受け取つて新しく生まれ変わつた、この世に新たに生を受けたも同前だつた

流太郎

君が、この世界を守つてくれていたのか

あなたほどではないですが、あなたの、そしてあなたの作ったこの世界の役に立ちたかった

流太郎

そうだつたのか……、その後の多くのバグも悉く内部で消して回つていたのはアンチウイルスを担つてくれていた君だつたんだな

流太郎

幸せでした、この日々が、あなたが喜ぶときも悲しむときも勝手に常に一緒でした

カル

僕思うんです、私が生きてきたこの時間がたとえ誰かに作られた物だとしても、確かに私はそこで生きて、笑い、悲しみ、喜び、そして涙を流してきました

カル

データではない、この目から流れたのは確かに涙だった、それを僕は嬉しく思うんです、あなたがいてくれたから感じられたもの

流太郎

……。

生きていると、どうしても辛い瞬間、厳しい瞬間に出て

会う

カル

流太郎

カル

それでも生命は続いていくんでしょう、あなた方に作られた我々も後世に何か残せるように、何かが続いていくように努める

カル

だから明日は、あなたも何も考えずにただ祝つてほしい、それは何かが特別だからとかではなくただ目の前の幸せに心からの賛辞を送つてほしい

カル バハ

流太郎

三

カル

今日はもう寝てください、明日は楽しくなるはずなの

卷之三

カレ  
流太良

流太郎

カル

おやすみなさい

「それは、なるものではなく、感じるもの」

(夜の広場にて、悩むリツケル板付き、そこに流太郎が覗き込み、

参上する)

流太郎

やあ

リツケル

ああ、リリューさん、どうも

リツケル

はああ  
疲れているね？

リツケル

ええ！ いやいや！ そんなことはありません！ 結婚式ギリギリまでまだやることは山積みですかから！

流太郎  
リツケル君とはまだ出会ったばかりで、僕のことは信用できないかも知れないがもしよかつたら、君が今何を考えているか、話を聞かせてくれないか？

流太郎  
リツケル  
結婚式は成功するでしょうか？

流太郎  
リツケル  
なぜそう思うんだい？

流太郎  
リツケル  
不安なんです

流太郎  
リツケル  
なぜ不安なんだろう？

流太郎  
リツケル  
とにかくやることが多くつて、もう何が何やら……

流太郎  
リツケル  
リツケル君は今、楽しいかい？

流太郎  
リツケル  
楽しい……、そりやあ、カルフエイさんとアヌリージュさんに喜んでもらえるかなあつて思いながら準備をするのは楽しいです

流太郎  
リツケル  
ふむふむ

町の皆さんも様々に準備をしてくれていて、そりや色々揉め事もあつたりですが、みなさん、結局楽しそうなんです、そんな姿を見てると僕も楽しくなつてるんです

流太郎  
リツケル  
そうか、それでも成功はしないのかい？

……。

流太郎 成功とは何を持って成功と言うんだろうね？

リッケル どうなんでしょう？

流太郎 僕はね、成功するとかはどうでもいいかなと思つている

リッケル え？！

いやいや、失敗を望んでいるって話ではないんだ、目標に向かつて全力で頑張ること、その待ちに待つた瞬間にやり切つたって思つたら、それを真の成功と呼ぶんぢやないかって

リッケル やり切つたと思つたら、それこそが成功

そう、成功、なんて言葉ではなく、君の身体や心で感じる目に見えないもので成功を感じてほしい

流太郎 この町の誰もが君の頑張りを知つてゐる、そしてきっと君も準備に気を抜くことはないだろう、さすれば必ずと真の成功に辿り着ける、僕はそう思うよ

リッケル そうか、そうなのかも

（うんうん）

リッケル なんだか心が晴れた気がします、ありがとうございます！

流太郎 よかつた、リッケル君の頑張る姿には勇気をもらえる

ね

リッケル そうですか？ えへへ、なんだか照れるなあ  
(歩いて離れて、照れ)

リッケル そういえば、リリューさんはこの町に来てみたかつたつて言つていましたが、なぜこの町に来てみたかつたんですか？ 何か特別な理由があるんですか？ もしあるならそれを聞いてみたいです！

流太郎 特別な理由……かあ、そうだなあ

(わくわく)

流太郎

この町は僕にとつて、とつても大事な町なんだ

リッケル

とつても大事？ 実はこの町の出身ですか？ けど、

リリューさんみたいな人の記録はなかつたような……

流太郎

ああ、この町の出身ではないんだ、なんていえばいいかな、作つた？

リッケル

つつつ作つた？！

(たじろぎ)

リッケル

リリューさん、な、な、何歳でですか？ やっぱり

邪教のまま魔法使い？

流太郎

いや、その、違うんだ、そんなに怯えないで

流太郎

ごほん、あのー、ちょっと質問していいかな？

リッケル

はい……

(じろり)

流太郎

リッケル君は明日世界が終わるとしたら、どんな1日にしたい？

リッケル

明日世界が終わるなら、ですか

(動いて悩む、悩む、悩む)

リッケル

最後まで笑つていて下さい

リッケル

怖い気持ちはありますが、町のみんなと一緒になら怖く

ないです

(えつへん)

流太郎

君にとつて、町の皆さんは家族みたいなものか

リッケル

はい、けど家族以上の大切で特別な人たちです

流太郎

そうか、それは素晴らしいことだ、人はそれを幸せと言つんだよ

リッケル

幸せ……

(きらきら)

リツケル 今日はよく寝れそうです  
(きらきら、にこにこ)

流太郎 明日は忙しくなるもんね  
リツケル はい！

（リツケル、はけていく）

（流太郎が一人残り、物悲しく帰っていく）

「おめでとう、さようなら、また会うその時まで」

（結婚式後）

流太郎 本当におめでとう

カル 楽しんでくれましたか？

流太郎 ああ、これほどまでに温かく、そしてこんな幸せな気

分は初めてだよ

カル よかつた、僕もそれを聞けて本当に嬉しい

（お互い笑う）

カル リリュー、もう一つ、あなたに伝えたいことが

僕に？ なんだろう？

流太郎 もしあなたが、その扉を通って元の世界に戻ると

き、それはこの世界の終わりを意味するのでしょうか

ああ、そのとおり

カル けど、それは人類、あなたの世界の常識に沿った認識

です、僕たち電子の世界の認識では、その方法ではこの世界は無くならない、数あるどこかの一つの扉が閉まってしまうだけ

流太郎 ちょっと待て、と言うことは電子の世界にはもう独自の構築基準や解釈、独自の法則が存在する？

カル

人類がまだ知らない我々の進化、こっちの世界の認識の仕方、在り方、電子の海の真実

カル

僕たちはまた会える、あなたが諦めなければ、必ず

流太郎

本当なのか！

カル

ええ、本当です、我々は死ない、消えない、このままこの世界で明日も生き続けます

流太郎

そうか、そうなのか、君たちは……、消えてしまわないのか……

(涙を流す)

カル

だから、また会えます、必ず

流太郎

そうか、本当にすごいな、君は

カル

あなたのおかげで、ここにいます

流太郎

いや、これは君が勝ち得たものだ、君自身の努力の賜物なんだ、素晴らしいことなんだ

(鐘を鳴らす?)

カル

時間ですね

流太郎

ああ、ありがとう、カルフェイ

カル

お疲れ様でした、リリュー、いや、流太郎さん

(握手)

流太郎

君からは恥ずかしいからその呼び方はやめてくれよ

カル

(扉に近づいていく)

カル

さよならは言いませんよ

カル

いつかまた、扉の向こうで！

流太郎

ああ、いつかまた、扉の向こうで！

(扉を開けて、進んでいくリリュー、ばいばい)

ガチャン！

終わり

AIを利用したゲーム作成は慎重に行わなければいけない

僕の精神と妻の精神のコピーをゲーム内のキーキャラクターに移植して、この世界全体の成長の起爆剤にする

そんな独自のそこにプレイヤーが降り立つてこの世界で遊べるのがこのゲームの